

坂本中 **StuD x** (スタディーエックスとよみます)を推進します

日立市立坂本中学校長

令和3年度に完全実施された新学習指導要領は、初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付けています。これを受けて、ICT活用の推進へ動き始めていた矢先に、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に猛威を振るいはじめてしまいました。

オンライン授業等による対応が迫られ、教育現場は、皮肉にもICT活用を一層加速させる必要がでてきたのです。その上、コロナ禍で生徒の外出や登校が制限された時期もあり、いじめ等の問題行動や不登校生徒が増加するなど、家でインターネットに向かう時間が増えたことが一因と考えられる新たな課題も生じてきました。これらに対応するため、「ICTを使いこなさなければ」という方向へ変化せざるを得なくなり、そのために、職員にとってもICTを自由自在に使いこなすことができる資質・能力を、是が非でも身に付けなければならないものになったのです。

一方、職員の働き方改革も求められています。2019年OECDが行った世界の小中学校で働く教員の実態調査では、1週間あたりの教員の勤務時間は、小中学校共に日本の学校が群を抜いて長いという結果が出ています。坂本中学校にも、全国の学校が抱えている教職員の負担軽減や業務削減といった同じ課題があります。情報化社会の進展の中でその課題をクリアするためには、ICTを積極的に使っていくことが有効な方法であると考えています。

これらのことから、校務遂行においてICTを積極的に活用するように職員に求めています。ただ、本校の施設面の課題もあり、すんなりと前に進めない現実もあります。職員にとっても、生徒にとっても、ICTを自由自在に操作し活用するという理想は、実現するには時間がかかりそうです。

動きだしたICT化の流れの中で最初の一步は、「様々な理由により、対面で授業に参加できない生徒にも、希望する場合にはオンラインによる授業に参加できるようにすること。」です。そして、「今ある環境を最大限に生かして、ICTを業務に積極的に取り入れていくこと。」を次の一步と考えています。坂本中 **StuD x** と名付けました。これを推進させていこうと考えてます。

令和5年2月3日